

藤沢市における『サイクルチャレンジ』と『ウィーラースクールジャパン』による
子供たちへの自転車普及啓発活動について

“Cycle challenge” and “Wielerschool Japan” for children at Fujisawa city

村山 吾郎 Murayama Goro

1. 2012 年度第 4 回秋葉台サイクルオープン Day[平成 24 年 9 月 22 日(土)]の事例について

現在、国内各地でさまざまな形で子供たちが自転車に親しむ機会を提供する活動に関係各位が行っておられる。その具体的な実践例として、筆者がホームページを通じて活動を知り見学させて頂いた神奈川県藤沢市で行われている『秋葉台サイクルオープン Day』と『サイクルチャレンジ』そしてその活動に協力しておられる『ウィーラースクールジャパン(Cyclingschool.jp)』の取組をご紹介したい(※なお本稿中の写真は、全て筆者が撮影したものである)。

(公財)藤沢市みらい創造財団スポーツ事業部では、「～みる・する・ささえる 生涯スポーツ～」というテーマを元に、さまざまなスポーツ・文化活動の実施・支援を行っている。その活動のひとつとして、地元出身の元自転車ロードレース選手・山本雅道氏やウィーラースクールジャパンのメンバーと連携して、「秋葉台サイクルオープン Day」を開催している。会場は秋葉台文化体育館(<http://f-mirai.jp/sports/gymnasium/akibadai>)の第 2 駐車場で、その広さは優にサッカーコート 1 面を超える広さである。

※山本雅道氏オフィシャルサイト <http://masamichi.info/>

同氏ブログ <http://blog.masamichi.info/>

※ウィーラースクール・サイクリングスクール公式 HP <http://cyclingschool.jp/>

平成 24 年度の活動実績(予定)は下記のとおり。

第 1 回	4 月 14 日(土) 12 時～16 時	会場：秋葉台第 2 駐車場
第 2 回	5 月 27 日(日) 12 時～16 時	同上
第 3 回	6 月 3 日(日) 12 時～16 時	同上
第 4 回	9 月 22 日(土) 12 時～16 時	同上
第 5 回	10 月 8 日(月祝) 12 時～16 時	同上
第 6 回	12 月 24 日(月祝) 12 時～16 時	同上
第 7 回	1 月 6 日(日) 12 時～16 時	同上
第 8 回	2 月 3 日(日) 12 時～16 時	同上
第 9 回	3 月 10 日(日) 12 時～16 時	同上

筆者はこのうち平成 24 年 9 月 22 日(土)に開催された第 4 回サイクルオープン Day を 4 歳の息子と共に見学・体験させて頂いた。その模様を以下に写真と共にご紹介したい。



<写真①②：参加者受付。幼児～小学生が中心。黄色いジャージがウィーラースクール講師スタッフの方々。>



<写真③：幼児2人乗り自転車に参加した親子。参加された方々の大半が、楽しく自転車に乗れる(慣れる)ことを目的にしておられるようである。>



<写真④：ペダル無しのストライダーも5台待機。3輪車を卒業し、まだ補助輪付きの自転車に乗る子供には、とても楽しい乗り物である。>



<写真⑤：参加者、お兄さんお姉さんコーチの元へ参加者の年齢や自転車に乗れるかどうかによってグループ分け。全員用意したヘルメットを着用>



<写真⑥：ストライダーでは、自分の足で地面を蹴り、バランスを取りながらスロープを下る。すべり台を降りるような要領で。>



<写真⑦⑧⑨： 筆者の息子(4歳)。最初はこわごと慎重に乗っていたが、慣れてくると喜び勇んで登り降りを繰り返すようになった。>



<写真⑩：幅、30cm ほどの一本橋シーソー。>



<写真⑫：バランスを取りながら渡る。>



<写真⑬：各親子が思い思いに自由参加。>



<写真⑭：兄貴分の中学生と参加者の親御さん。>



<写真⑮⑯：黄色・青色のミニコーンのスラロームコースと、外周には1周 200m 程度の周回コース。>



<写真⑰：当日は炎天下。水分補給も欠かさずに><⑱：右端に座る山本雅道校長と子供達 20 人で記念撮影。>

当日の会場では夏の名残りの炎天下の中、自動車が来る心配のないとても広々としたコースで、子供たちは親御さんや自転車に乗ることを愛するお兄さんお姉さん達に見守られながら、力いっぱい伸び伸びと自転車で走ることを楽しんでいたのがとても印象的であった。

これから先この子たちが成長していく中で、この機会が楽しい思い出や自転車を好きになるきっかけになるであろうと、息子を見ていても感じる事ができた。

2. 第6回サイクルチャレンジ藤沢 in 秋葉台[平成 24 年 11 月 23 日(金・祝)]について

年に 9 回開催されているサイクルオープン Day に対して、その集大成的に年 1 回開催されるイベントが『サイクルチャレンジ』である。

2012 年 11 月 23 日に開催された「第 6 回サイクルチャレンジ藤沢 in 秋葉台」も、見学させて頂いた(息子も参加させて頂く予定であったが、当日体調不良で筆者のみの見学した)。

※引用出典：第 6 回サイクルチャレンジ藤沢 in 秋葉台 公式ホームページ開催告知・参加者募集より
<http://www.fame.co.jp/ws/2012fujisawa/>

Cyclingschool.jp 今乗っている自転車で、だれでも参加できるよ！
一本橋やスラローム、自転車で楽しく遊ぼう！
Wielerschool Japan
ひとりでも多くの子どもに、自転車に乗る楽しさを。

第6回
サイクルチャレンジ藤沢 in 秋葉台
2012年11月23日(金祝)

超豪華講師陣勢揃い！
ちびっこあつまれ！
参加者大募集！

みんながふだんに気なく乗っている自転車は、排気ガスも出さないため、環境にとっても良い乗り物として、今、とても注目を浴びています。そんな自転車をもっともっと楽しむために、安全な乗り方、そして楽しむための乗り方を藤沢市出身のプロロードレーサー山本雅道選手を校長に、豪華講師陣が楽しく教えます。

「普段なにげなく乗っている自転車が楽しい乗り物に大変身！」
「いろんなゲームやミニレースで自転車を楽しもう！」
「どんな自転車でも気軽に参加できます」

第 6 回 サイクルチャレンジ藤沢 in 秋葉台～自転車安全・スポーツ教室

＜開催日＞ 2012 年 11 月 23 日（金祝）

受付開始 10:30～

スクール 11:30～15:30

＜主催＞ サイクルチャレンジ藤沢実行委員会・ウィーラースクールジャパン・
公益財団法人藤沢市みらい創造財団

＜協賛（予定）＞

T-make <http://www.t-make.com/>・

ブリヂストンサイクル株式会社(BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM)

＜協力＞ 日本サイクリング協会

＜後援＞ 藤沢市、藤沢市教育委員会、藤沢北交通安全協会、藤沢市交通安全対策協議会

＜会場＞ 藤沢市秋葉台運動施設 第二駐車場特設会場＜イラストマップ＞

住所：藤沢市遠藤 2000 番地の 1＜アクセスマップ＞

＜講師＞ 山本雅道（チームマサミチ）

ブラッキー中島（ウィーラースクールジャパン代表）

他、豪華選手講師陣を予定

＜募集＞ 参加資格：小学生

※最低補助輪がはずれている子どもさん

※小学生以下でも普通に走ることができれば参加できます

※補助輪つきしか乗れないお子さんでも参加出来ます。

別メニューになりますが、補助輪外しの練習用自転車ストライダーで遊んでもらえます。

（数に限りがありますので、希望者多数の場合、みんなで仲良く交代しながら使います）

ストライダーについて <http://www.strider.jp/>

※中学生でも是非参加してみたいという方は[気軽に問い合わせ](#)てください。

＜クラス＞：エキスパートクラス（競技に参加、または目指している）

スポーツクラス（競技には参加しないがスポーツ走行を学びたい）

チャレンジクラス（基本的な自転車走行の技術を学びたい）

バンビーノクラス（未就学児）

補助輪外しクラス（補助輪を外したい）

ストライダークラス（ストライダーで遊びたい）

<募集数> : **100 名**

<参加費> : **無 料** (傷害保険含む)

<持ち物> : 自転車 (普段乗っている自転車でも構いません)

ヘルメット、グローブ (手袋)、動きやすい靴と服装、飲みものなど

※当日、会場で子ども用ロードレーサーなどの試乗車を用意しています。

数には限りがありますので、レンタル希望の方は、希望サイズを申込時にご連絡ください。

(先着順となります。申し込まれてもご希望に添えない場合があります)

[申し込みはこちら！](#)

お問い合わせも、wsj.fujisawa@gmail.com まで。

■ エントリーされた方は下記の内容に同意されたものと見なします ■

私は今スクールに参加するにあたり自分自身の健康管理に細心の注意を払い、講師等の指導に従います。万一の事故、疾病に際しては主催者に対しその責任を問わず、自己の責任において処理することを誓います。

<お問い合わせ>

- メールでのお問い合わせ
- 電話での<申し込み>のお問い合わせ
秋葉台運動施設 046-688-1111
- 電話での<スクールの内容について>のお問い合わせ
ウィーラースクールジャパン事務局 0771-75-5055

以下に、筆者が撮影した当日の写真でご紹介する。

当日はあいにくの雨天で、気温も約 10℃と大変肌寒い日だったため、当初の予定を変更して藤沢市秋葉台文化体育館内でスクールを開催することになった。



<写真⑱：藤沢市秋葉台文化体育館 正面入口>



<写真⑳：サイクルチャレンジ受付>



＜写真 21：会場ステージ前。同財団の職員であり、練習中に交通事故に遭い競輪選手を引退した後、懸命なリハビリとトレーニングで、2008年北京パラリンピック自転車競技 1km タイムトライアル金メダリストとなられた石井雅史氏がスクールの世話役と、息子さん参加付き添い。後ほど筆者もご挨拶させて頂いた。＞



＜写真 22：スクール開始に先立ち、参加した子供たちを招き入れる、ウィーラースクールジャパン代表・ブラッキー中島隆章氏。本日の司会進行・メインの講師を務めておられたので、合間を縫って筆者もお話をさせて頂いた。＞



＜写真 23：子供たちにスクールの開始を挨拶。＞



＜写真 24：子供たちを見守る親御さん達。＞



＜写真 24：山本雅道校長・市議会議員・渡辺レーシングサイクル関係者・石井氏＞



＜写真 25：中島氏・山本校長＞



<写真 26 : 講師陣・ブリヂストンアンカーの4選手>



<写真 27 : 紙芝居で『自転車は未来の乗り物』>



<写真 28 : 紙芝居で『ヨーロッパの自転車事情』>



<写真 29 : 紙芝居で『自転車の歴史』>



<写真 30 : 紙芝居で『自転車の交通ルール』>



<写真 31 : 紙芝居で『してはいけない乗り方』>



<写真 32：紙芝居で『走り方の注意』>



<写真 33：ウィーラースクールスタッフの方々>



<写真 34：チームブリヂストンアンカーの方々登場>



<写真 35：ローラー台での模範走行>



<写真 36：参加者の親御さんや関係者と 2 階に移動>



<写真 37：山本校長が一本橋走行のお手本を>



＜写真 38：スラローム走行と一本橋走行の解説。＞



＜写真 39：スラローム走行の模範実技で控える。＞



＜写真 40：参加者を年齢体格でグループ分け・低学年＞



＜写真 41：小学校中学年～高学年のグループ＞



＜写真 42：主催者で用意した自転車を選ぶ＞



＜写真 43：スタッフの方々も現場で役割分担＞



<写真 44：1 階で練習する未就園児・幼児グループ>



<写真 44・45：未就園児はストライダーで練習。練習する子供たちの傍には、弟妹を抱えた親御さんも付添う。>



<写真 46・47：再び小学生が練習する 2 階・一本橋コーナーへ。スタッフの方々がマンツーマンで教える。>



<写真 48・49：雨が小振りになってきたので、体育館の外にでる。参加者全員で体育館の外周コースを走る。>



<写真 50・51：最初は1列で前後の人にぶつからないように。数周して慣れたら競技を想定し2列の集団走行。>



<写真 52・53：中島氏より「周りの仲間ともっと肩寄せ合うくらいに」とのお題が。選手が誘導・サポート。>



<写真 54・55：さらに慣れてきたら今度は3列に。前後の間隔もつめて！>



<写真 56・57：小さい子たちも慣れてきたので、今度は4列になろう！>



<写真 58・59：一緒に走る仲間と息を合わせて、スポーツとして自転車に乗る楽しさを感じてきた子供たち。
もちろん、一般公道で2人以上が並走(並進)することは交通ルール違反であり、その点については講師の中島氏やサポート・先頭誘導している山本校長やブリヂストンアンカーの選手達から子供たちにはきちんと伝えている。
その上で、例えば陸上競技のマラソンのように、安全に集団で走る時のコツやテクニックや作法、あるいは共に走る仲間への気配りとバランスといったことを、子供のうちからこうした形で体験できることは、子供たちにとってとても有意義であると実感した。>



<写真 60・61：スクールに参加した子供たちと講師の方々と記念撮影。それを見守る親御さんとスタッフ。>



<写真 62・63：参加者に抽選で記念品をプレゼント。中島氏より講師の先生と握手やサインを、と声掛け。>



<写真 64：山本雅道校長にサインをもらう子供たち>

<写真 65：ブリヂストンアンカー選手からサインをもらう子供たち>



<写真 66：ウィーラースクール号『ひとりでも多くの子どもに、自転車に乗る楽しみを。』のメッセージ>

3. 結びとして

このたび『サイクルオープン Day』と『サイクルチャレンジ』を見学させて頂き、山本雅道校長や、ウィーラースクールジャパンのブラッキー中島隆章氏とお話させて頂いて、その活動に大変感銘を受けた。

読者諸兄姉にウィーラースクールの理念をぜひご紹介させて頂きたく、長くなるが公式ホームページより引用して、本稿の結びとさせて頂きたい。

※引用出典：ウィーラースクールジャパン公式ホームページより

自転車教室のポータルサイト『Cyclingschool.jp』 <http://cyclingschool.jp/>

ウィーラースクールとは http://cyclingschool.jp/?page_id=26

■ウィーラースクールジャパンは自転車の愛好家たち有志のグループです

わたしたちウィーラースクールジャパン(※)は、自転車が好きな愛好家たちが「一人でも多くの子どもに自転車の楽しみを」を合い言葉に全国津々浦々からサイクリストの有志が集まったグループです。

現在、約 70 名がスタッフとして登録しています。(2012 年 12 月現在)

わたしたちはここ数年来、子どもたちへの自転車教育のニーズの高まりを受けるなかで活動範囲を全国に広げ、全国約 40 ヶ所、年間参加者のべ 2,000 人をはるかに越える子どもたちを対象にスクールを開催する実績を持つに至りました。わたしたちは、この活動を自転車業界や、競技界とは一線を画した市民レベル、つまり「第三の動き」としてとらえています。それは自転車を愛好するサイクリストたちが自分たちの出来る範囲で、自転車を取り巻く環境を自らの手で作り上げていくという「草の根の活動の広がり」こそが、本当の意味での「自転車文化」を作り上げる原動力になりうるものだと思っています。そのためにも私達の活動は、子どもたちに単に自転車の乗り方を教えるだけではなく、自転車に乗る楽しみを感じる機会を作ること、そして、子どもたちと一緒に考えることが大切だと感じています。

ウィーラースクールジャパンの拠点は京都府南丹市にある美山町。

この自然豊かな町を中心に全国に向かって、子どもが安心して自転車を楽しめる社会への提案を発信していきます。※ 2003 年、神戸を中心にした自転車好きの若者たちのグループからスタート。その後、紆余曲折を経て、2007 年より今の形となる。

■ベルギー生まれのカリキュラムをベースにした、新しいジャパン・オリジナルのカリキュラム

わたしたちは、自転車競技の本場ベルギーのベルギー及びフランドル地方自転車連盟の子ども向け教材をベースに、過去数年の経験と今の日本の環境を考慮に入れた、新しいカリキュラムを開発し実践しています。自転車競技の本場ベルギーでは、サイクルスポーツの人気は相当なもので、週末になると多くの子どもたちが自転車教室へと足を運び、自転車のテクニックを学び、自転車競技に触れる機会としています。そのため、そのカリキュラムは、最終的には競技者の底辺拡大とその育成、強化を目指すものが基本となっています。

わたしたちのカリキュラムは、技術的にはベルギーの教材をベースとしながらも、スポーツとしての自転車だけでなく「遊び道具」としての自転車、なによりも「楽しい乗りもの」としての自転車としての提案も含めた大変幅の広いものとなっており、競技経験者でなくとも簡単に理解し実践できるものになっています。

■自転車は、健康にいい、そして環境にもいい、まるで未来の乗り物。

誰もが簡単に乗ることのできる自転車。その用途は単なる交通手段としてだけでなく、趣味やレクリエーションとして、また本格的なスポーツ競技として幅広く裾野を広げています。

例えばヨーロッパにその例があるように、サイクルスポーツは人気のトップスポーツであるという以外に、普段の生活の移動手段として買い物や通勤、通学に使うなど、用途の幅が大変広い、非常に珍しい乗りものでもあるのです。

自転車は、排気ガスも出さない環境に良い乗り物としてだけでなく、家族のコミュニケーションツールとして、また健康維持の為に生涯スポーツや教育の一環としてなど、各方面からその可能性に多くの期待が寄せられています。

しかしながら最近では、自転車に関する交通事故の増加、不法な放置自転車の問題などをはじめ現在のブームとは逆行した社会的な悪者として取り上げられることも少なくありません。

わたしたちは、こうした自転車のおかれた環境の改善や、これからの自転車のもつ社会的役割を広く認知させる為にも、子どもの頃からスクールなどを通じた自転車に対する知識や経験をさせて行く事を重要な課題と捉えています。

子どもの頃から、正しい交通安全・マナーなどの知識や自転車の操作技術の向上を図ることで「**自転車に乗ることが楽しい**」という、「**正しい感情**」を子どもたちに喚起させる、と同時に「**道路はシェア(共有)するもの**」という意識を植え付けます。それは結果的に将来の優良ドライバーや優良サイクリストを生み出すことになり、ひいては自転車を軸とした社会環境の整備につながると考えています。そのためにも、楽しく快適にサイクルスポーツを楽しめる環境整備などが急務なのです。わたしたちは常に10年先の未来を見据え、生活の中に根ざした「自転車文化」のための一助となるよう全国でスクールを開催し、ひとりでも多くの子ども達に自転車の楽しみを知ってもらえるよう活動しています。ヨーロッパで200年前に発明された歴史を持つ乗り物。それこそが、**持続可能なライフスタイルを築き上げる未来の乗り物「自転車」**なのです。

■子どもを安全に自転車に乗せることは、大人の責任です。

わたしたちの用意したカリキュラムは、大人が子どもと向き合うときに知っておかねばならないことを多く含んでいます。ヨーロッパの町のスポーツ施設ではクラブハウスを町の各チーム・クラブ・団体・市民が共同利用し、そこにある施設・道具を維持運営する形をとっています。そこでは日頃から情報交換・相互交流が活発に行われており、子どもから大人までが各役割を担い合い、成長に従ってその役割を変化させつつ、地域に還元していきます。

しかし、現在の日本においては、子どもが安全に自転車競技にふれ合う機会がほとんどありません。自転車競技以前にまず、安全に自転車にのる場所を見つけることが困難であるということ、つまり受け皿が無いのです。

今後、さまざまな地域に自転車文化を根ざしていくためにも、サイクルスポーツの楽しみ方を紹介していき、且つ交通安全の知識を普及することができるこうしたスクール活動が大きな役目を担っていくと考えます。ひとりでも多くの方が、このカリキュラムを実践し、ひとりでも多くの子どもたちが「自転車の楽しみ」に気づいてくれることを心から願っています。

子どもたちが安全に自転車を楽しめる環境を作ること、それはすなわち、わたしたち大人の責任です。

以 上